令和８年度 病害虫発生予察 注意報 第９号

令 和 ８ 年 １ ０ 月 ２ ６ 日
大分県農林水産研究指導センター
農　　業　　研　　究　　部

１　対象病害虫　シロイチモジヨトウ
２　対 象 作 物　ネギ
３　対 象 地 域　平坦地
４　発 生 面 積　多い
５　発　生　量　やや多い
６　発表の根拠

（１）10 月 16 日および 20 日に実施した巡回調査では、発生圃場率が 100％で、平均被害葉率が平年よりやや高かった（図１）。先月の長雨からの天候回復や直近の相次ぐ真夏日の出現に加え、交信攪乱剤の残効期間の終了も重なり、発生が増えたものと考えられる。また、卵塊も多数確認されていることから、次世代の発生増加も懸念される。

発 生 圃 場 率：100％（平年：69.6％、前年：75.0％）
平均被害葉率：8.4％（平年：　6.7％、前年：11.8％）

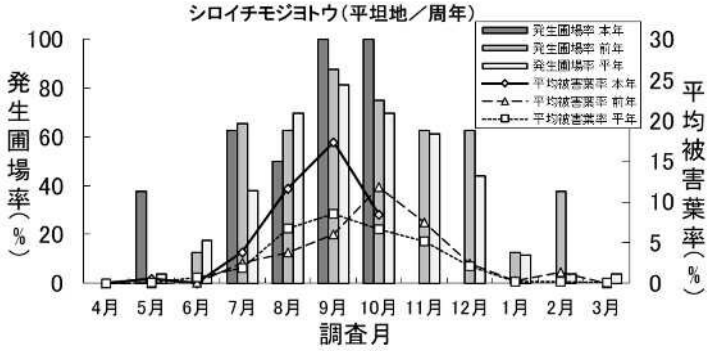


図１　病害虫発生予察巡回調査でのシロイチモジヨトウの発生状況（平坦地）

（２）県北部地域に設置したフェロモントラップでは、豊後高田市を中心に平年より誘殺が多い状況が続いている（図２）。また、北部振興局で実施しているフェロモントラップ調査においても、10 月下旬から発生が多い状況が続いている（表１）。

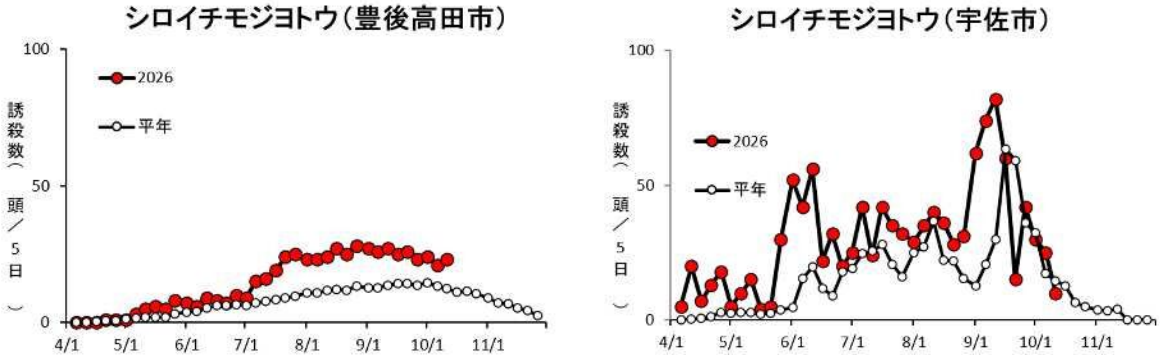


図２　県北部地域でのシロイチモジヨトウのフェロモントラップ誘殺状況

表１　豊後高田市呉崎でのシロイチモジヨトウのフェロモントラップ誘殺状況

誘殺数	１工区	２工区①	２工区②	３工区	旧干拓
9/30	39	273	197	78	154
10/7	37	185	233	32	94
10/14	74	398	305	94	67
10/21	194	706	860	106	179

（３）本虫は高温乾燥条件で発生が助長される傾向にあり、１か月予報（10 月 22 日・福岡管区気象台発表）によると、平均気温は平年並 20%、高い確率 70%と、高温条件で推移することが予想されており、さらなる発生の助長が懸念される。

（４）シロイチモジヨトウに加え、ネギアザミウマ等の他の害虫についても発生が多い状況が続いており、今後の発生増加が懸念される。

〈ネギアザミウマ（平坦地）の発生状況〉

発生圃場率：100%（平年：48.4%、前年：75.0%）

平均被害度：16.1 （平年： 6.5 、前年：12.2 ）

７　防除対策

（１）本虫は葉身内に侵入することで薬剤がかかりにくくなり、防除効果が著しく低下するため、圃場を定期的に確認し早期防除に努める。また、夏場に設置した交信攪乱剤の残効期間は既に終了しており、発生状況に応じて薬剤防除を行う。

（２）薬剤散布については、農薬使用基準（希釈倍数、使用時期、使用回数等）を遵守する。散布時は展着剤を加用し、十分な薬液量（ラベル記載内容の範囲内）で丁寧に散布する。

（３）使用薬剤は、大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。中でも同一成分を含む薬剤を連用しないようローテーション散布を心掛ける。

ホームページアドレス

https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujosho/yasai.html

病害虫対策チームホームページ

https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujosho/